

かもしれないが……。諫早（いさはや）とい

うと1997年に干拓事業として潮受け堤防が次々と閉められるというショックな映像が全国に流れたあの街である。現在では、ギロチンシャッターの上に車道が通さ

れていて、ドナルド・ジャッドの作品のごとくシャープにエッジをきかせながら約1キロある対岸同士を一直線に結び、海と干拓地の境界を示している。ここ諫早は、有明海に続く諫早湾、外海側に橘湾、そして

入村湾と3つの異なる湾に囲まれた珍しい土地でもある。木造平家造りだった駅舎も最近になって大改築され、スタバも入る複合施設の駅ビルに生まれかわった。近くには絶好のシチュエーションだろう。そんなエリアに鳥山が室長を務める諫早造形研

究室がある。古き良き（もしくは悪しき）昭和を感じさせる佇まいのままのその研究室は、とにかくすこしでも上位ランクに合格させるための美術予備校というよりも、進学後に続く美術との関わりかたに指導の重心を置いた寺小屋めいた趣がある。そこで事務や会計、学科講師や室長補佐として鳥山をフォローしているのが、本企画の主人公となるアズプロ第四の男、南條哲章であ

釣りを楽しみ、おすすめの道の駅を案内してもらい、潜伏キリシタンの地を辿り、ちゃんぽんやトルコライスを食べくらべ、皿うどんの裏メニューを覚えながら、研究室に

集まる鳥山の教え子たちとも交流を深めるときに、忙しい合間を縫っていつも彼は顔を出してくれた。そして2018年の終わりに、アズプロの立ち上げを快諾してくれた。

「この南條とはいったい何者なのか？」と、これまでに何度か質問されたことがある。彼を説明するには長崎・諫早について書かなければいけないように思いこのように紹介が長くなっていくが、彼はアーティストではない。という、では何をする者がアーティストなのか。アーティストと称する者の作品が本当にアートかどうか。

アートとはなんだ？ というブーメランが返ってくるのだが、一般的にいう表現者としてのアーティストではない。大学では工学部に在籍し、企業に勤め、現在は地元諫早で新しい家族と暮らし、保育園を設立し、三代続く市議会議員の父親を補佐し、地域の消防団にも属し、地元ではすこぶる顔が

広い。さらに幼馴染の研究室を支援、アズプロのメンバーでもある男、それが南條哲章だ。とはいえ、それは彼の表層の一部に他ならない。アズプロでは、メンバーのそれぞれが企画を打ち出しその運営を担って

いるので、本人が行動しないかぎり何かが始まることはない。今回で28回目となる本企画では、その他のメンバー四人（鳥山秀直、田中啓一郎、酒井一吉、東亭順）が個別に南條をインタビュース、何かしらの表現物としてそれぞれ提示することになった。

もしかしたら南條は、自らが動くのではなく自発的にメンバーが動くのを待っていたのかもしれない。不動だからこそ生み出せたともいえるこの企画の開始から、四人の美術家たちが一人の男にロックオンした。妄想と思考を四六時中くり返しながら南條哲章という男を考える旅に歩み出したのだ。南條と我々インタビュ

アーとのやりとりを収めた記録映像で、それぞれの異なる切り口やその経過を通して、アズプロ第四の男、南條とは何者か？ という人間の解体が始まる。また一方では、ねるとん紅鯨団の告白タイムではないが、この告白とも言える創作行為によって、我々の人間関係が今後どのように深化するのか楽しみである。

た。

た。

* 鳥山秀直（画家）アズプロ創立メンバー。諫早造形研究室とNagasaki Factory（このsongs for a pigeonを開催した。）

東亭順（現代美術家）

アズマテイプロジェクト

展覧会 アズマテイプロジェクト#28 美術展覧会第1回「南條哲章」
開場 2022年4月23日(土)、24日(日)
時間 14:00-18:00
入場料 無料
所在地 〒231-0045 横浜市中区長者町7-112 伊勢佐木町センタービル3階
文章 東亭順
企画 田中啓一郎

